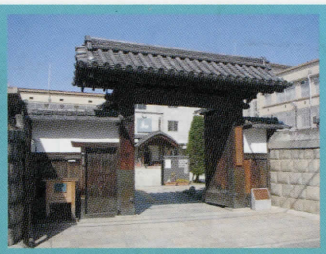
京都市学校歴史博物館だより

VOL. 20
平成22年9月発行


正門・石塀・玄関車寄せは国登録文化財

企画展「学童集団疎開の記憶」

太平洋戦争が激化し，本土決戦を目前にして，文部省は学童の縁故疎開（都市の児童を田舎の親戚などの家に移す）を促しましたが，昭和19（1944）年6月30日，国民学校初等科児童の集団疎開が閣議決定されました。

京都市は，最初疎開を行う都市ではありませんでしたが，昭和20（1945）年1月，修道学区の馬町が空襲を受け，同年3月の春休みに入った時点から，3年生以上の第一次集団疎開が始まりました。

疎開先は地域ごとに京都府下の町村が指定され，宿舎には寺院や教会，旅館が寮として提供されました。

疎開児童は，疎開先の国民学校（小学校）で地元の児童と一緒に授業を受け，放課後は畑を耕すなどの労働に就きました。約七ヶ月間の疎開生活を親元から離れて暮らした幼い子どもたちは，空腹感とホームシックとシラミ等の害虫に悩まされ，逃げだす児童もいました。また，引率教職員にとっても，児童の生命を預かった苦しい七ヶ月間でした。

一方，疎開児童を受け入れた地域の住民との交流は，思い出深い記憶として残り，年月を経た現在まで交流が続いている例もあります。

こういった貴重な体験をした人々の記憶を収集し，集団疎開の実情に迫る当時の資料を展示することで，二度と同じ歴史を繰り返さないためにも後世に伝え，平和と人権の大切さを感じていただく展覧会にいたしました。

【開催期間】　平成２２年６月２５日（金）～９月２７日（月）
【関連講演会の開催】　８月２８日（土）午後２時～　講師：山嵜泰正氏「憶学童集団疎開の記憶」
９月１１日（土）午後２時～　講師：磯崎幸典氏「西陣空襲被害を体験して」

修徳国民学校の疎開絵日記「**就寝前の風景**」
個人蔵

京都師範学校女子部付属国民学校の疎開
「**手作りのセタを担いで**」　個人提供

絵手紙「**瑞雲寺寮の午後**」（有隣国民学校）
瑞雲寺蔵

葉桜寮の澤井淳子さんの絵日記（修徳国民学校）
個人蔵

京都市学校歴史博物館のホームページアドレスが新しくなりました。
新アドレスはhttp://kyo-gakurehaku.jpです。是非御覧ください。

過去の企画展より　教科書に登場する人たち　平成22年3月12日～6月21日

明治時代から現在までの教科書の中には,様々な人物像が見られます。この企画展では,京都市立学校・園の所蔵する美術工芸品の中から,それらの人々にちなんだ,絵画や人形や彫像,また揮毫された書などを中心に展示しました。作品の横には教科書の頁の写真パネルを添えました。

全ての人物に緻密な説明をつけることまではできませんでしたが,視覚的に楽しみながら,日本の歴史や教育の変化も感じていただけたことと思います。神代の人物や桃太郎や二宮金次郎は現在の教科書では見られませんし,一方,近年注目されている坂本龍馬は,明治時代の教科書ではあまり見られませんでした。楠木正成や豊臣秀吉は,現在でも日本史に欠かせないけれども,かつては,客観的な歴史の記述だけではなく,楠木正成は「忠臣の鑑」として讃えられていましたし,豊臣秀吉は主人によく仕え皇室を尊んだ理想的な人物として語られていました。

当館ならではの,この企画展を手がかりに,もっと分析・考察をすすめて,いずれまた新たな企画展を開催したいと思います。

坂本龍馬像
公方菊僊　中島気峥
室町小学校蔵

押絵屏風　乾隆実務女学校生徒作品　乾隆小学校蔵

桃太郎図　猪飼嘯谷　元 滋野中学校蔵

過去の企画展より　町衆のエネルギー！～京都・番組小学校展～　平成21年12月8日～平成22年3月8日

この企画展では,64校の番組小学校遺物を公開し,開校当初の様子や,教育を紹介することを目的としました。

明治2(1869)年の番組小学校開校に至るまでの京都府と各町組とのやりとりは,「京都府庁文書」や,各町に残る古文書が語ってくれました。そこには,京都府と町衆と,どちらか一方が欠けても学校建設が成り立たなかったと思われるほどの強固なパートナーシップと,お上(京都府)の方針に対してもはっきり物申す「町衆」の心意気が見てとれました。

今回新出の「上京第二十七番組小学校(旧柳池小学校)平面図」は,開校当初の図面です。ここには,校舎内に巡査や区長の詰所がおかれていた様子が画かれており,この図面が,開校当初の校舎を物語る唯一の資料です。

小学校の維持運営方法についても興味深いことがわかりました。京都府は,各町組に対して,備米を元手とした会社を設立し,地元へ産業振興のための資本を貸し付けて,その利潤で小学校の維持・運営を行うことを奨励していました。

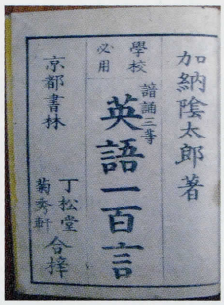
今回展示した借用証文や町の金銭出納帳などから,貸し付けは,個人よりも主に町単位で行われていたことがわかりました。また,会社自体も,運用資本の確保のために町から資金を借用しており,学校の運営をめぐる資本運用は,一方向だけのものではなく複雑であったようです。いずれにしても,まだまだ文書を読み解いていく必要があると思います。

開校当時の小学校で使用されていた教科書は,当館にも数多く所蔵されていますが,今回展示した「学校必用英語一百言」という英語の教科書は,明治6(1873)年から京都で英語教育が始まったことを裏付ける大変貴重な資料です。この教科書を使って,子どもたちが馴れない英語の勉強に悪戦苦闘している様子がうかがえます。

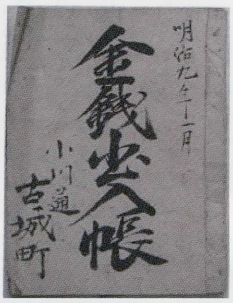
今回の展示で改めて感じたことは,学校建設にかけた「町衆」のエネルギーの大きさと学校への愛情の深さです。それは,今でも学校に関わる資料が「たからもの」として,学区や個人で保管されているということからもわかります。

今後も先人の残した功績を大切に守り続けていくことが,我々の役割といえるのではないでしょうか。

「明治10年築の望火楼」　元 梅屋小学校提供



「学校必用　英語一百言」
神田外語大学付属図書館蔵



「古城町金銭出入帳」
京都市学校歴史博物館蔵

講演会より　～近世京都の教育文化と番組小学校～

平成22年１月17日，京都大学大学院教育学研究科教授の，辻本雅史先生を講師として，講演会を開催しました。その概要は次のとおりです。

近世に入り，日本の政治権力の中心は江戸に移り，経済の活発な都市は大阪となり，京都は危機を迎えた。

しかし，そのような危機においても，政治権威（朝廷）・文化・学問・伝統産業の中心は京都であり，それを維持し伝えてきた人々の力が根底にある。

京都は江戸時代から武士が少数であったため，政治権力から比較的自由であり，経済が活発化し，また伝統産業が職人たちの力で守られており，文化的にも重要な都市であった。それが町衆の力となっていった点で，全国でも稀な都市として注目に値する。

さらに，各宗派の本山が京都に集中しており，全国から多くの修行僧が京都にやってきて修行を積んでいったという学術都市・宗教都市としての役割があり，観光都市として繁栄してきたことが増々商業の活性化につながった。

昔から京都の人々は自治意識が強く，自分たちの生活をより良くしていくという意識が，全国初の公教育、つまり学区制の小学校（番組小学校）の設立につながっていったと考えられる。教育によって優秀な人材を育て，社会を良くしていくということに早くから人々は気づいていた。

講演を拝聴し,改めて町衆の力が番組小学校をつくりだしていったのだということを認識することができました。

過去の企画展より　学校を掘る　～まなびやの下の京都～　平成21年9月18日（金）～12月14日（月）

地中に埋もれた文化財は，永い年月の京都の町の営みを浮かび上がらせてくれます。

京都市立学校の敷地の調査はこれまでに200回以上も行われ，成果をあげてきました。

この企画展では，その成果を，財団法人京都市埋蔵文化財研究所と京都市考古資料館の協力を得て，約60校の遺跡の写真と出土遺物で紹介しました。遺跡は，今はもう写真でしか見ることのできないものであり，周りの風景や学校の校舎や設備の一部が写っているのも興味深いものでした。また，出土遺物は，縄文時代から近代までのたくさんの遺物の中から，生活雑器を除いて「学校の下のたからもの」を選びました。

これらの貴重な資料から，京都の歴史と文化の奥深さを考えていただけたことでしょう。

江戸時代の遺構から出てきた伊万里の鼓形土器
御所南小学校
京都市考古資料館蔵

江戸時代の金属関連工房がみつかった
元　柳池中学校　（現　京都御池中学校）
（財）京都市埋蔵文化財研究所

「齋宮」の字が書かれた墨土器
（平安時代）西京商業高等学校
（現　西京高等学校）
（財）京都市埋蔵文化財研究所

綾部向付
（江戸時代）
元　竹間小学校
京都市考古資料館蔵

墨書人
（平安時代）
七条小学校
京都市考古資料館蔵

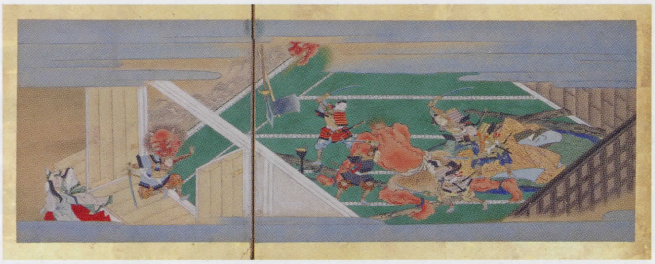
講演会
「校庭に眠るいにしえの京都」

講師：財団法人京都市埋蔵文化財研究所
丸川義広 氏
平成21年11月22日（日）13:30～15:00

堀河院池跡（平安時代）　元 城巽中学校
（財）京都市埋蔵文化財研究所

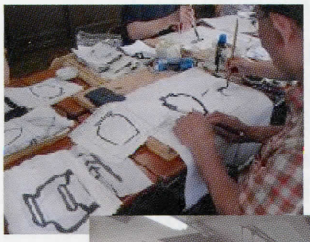
京都市立学校の敷地の発掘調査の成果を，豊富な写真や資料を使ってお話いただきました。

併設展示「学校のたからもの～歴史を彩る人々～」



酒呑童子絵巻貼付屏風　元 富有小学校 蔵

最近の講座から　～日本画運筆教室～



明治の小学生用の教科書をお手本にして,日本画の運筆を習いました。五回連続講座で,最終日には団扇に夏らしい絵を描きました。

学校歴史博物館では,元小学校の教室を利用して,明治の小学校を体験する教室を開催しています。

今回の模写のお手本となっている絵です

唐獅子図　入江波光　　元 待賢小学校蔵

今後の教室・講座ご案内

＊館長談話室　平成22年10月19日・11月16日・12月21日（第３火曜日）　14:00～15:00

＊古文書を読む（三回連続講座）　平成22年9月10日・17日・24日（毎週金曜日）　10:00～11:30

＊書を楽しむ（五回連続講座）　平成22年11月11日・18日・25日　12月2日・9日（毎週木曜日）　10:00～12:00

昔の学校あれこれ　第十三回

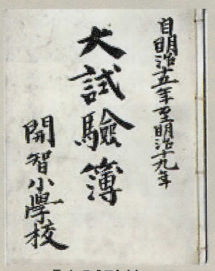
テスト

明治初期の小学校の試験制度は,小検査と大検査があり,小検査は明治３(1870)年に始まり,内容は中学校の職員を小学校に派遣し,課程を審査するものでした。

明治5(1872)年に『大検査ニ付受験心得』が定められ,小学校における進級試験の制度が明らかになっています。

福沢諭吉著『京都学校記』には,「春と秋の大試験では,教員はもちろんのこと,ふだんは教壇に立つことのない者も学校に集まり,府の知事や参事から,町内の世話役である年寄りにいたるまで,自ら生徒に接してその学力を試し,その優劣にしたがって筆・紙・墨・本などの褒美を与えることがきまりとなっている。」と記されています。

大検査は朝６時に始まり,夜５時まで続き,生徒だけでなく教員も適否を試されるものでした。優秀の賞をもらう生徒は大変な名誉で,さらに特別優秀な生徒には,助教員になるようにとの辞令が出ました。

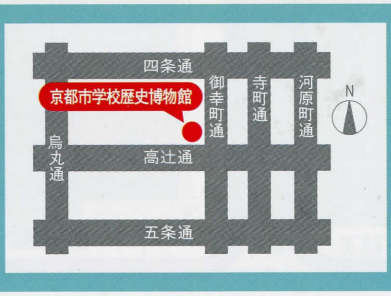


「大試験簿」
明治１５年～１９年
元　開智小学校蔵

「枝折」明治９年
元　修徳小学校蔵
優秀な成績で級を終了した児童には枝折が授与されました。

京都市学校歴史博物館
京都市下京区御幸町通仏光寺下ル橘町437（元開智小学校）
TEL. 075-344-1305　FAX. 075-344-1327

●入館料/大人200円　子ども（高校生以下）100円
（20名以上の団体/大人160円　子ども80円）
※京都市内の小・中学生は土・日は無料
●開館時間/9：00～17：00（入館は16：30まで）
●休館日/水曜日（休日の場合は翌日）
12月28日～1月4日



時を超え 美しく
ひと輝く 歴史都市・京都

●阪急電車/「河原町」駅下車　南西へ歩5分
●地下鉄/烏丸線「四条」駅下車　南口改札東へ歩10分
●市バス/「四条河原町」停下車　河原町通より西へ二筋目（御幸町通）より南へ歩3分